



神守山車

穂藏神社・憶感神社(神守町)の祭礼に引かれたもので、文化年間(1804~1818)頃に始まったと言われます。



上町車 関羽(かんう) 中町車 林和靖(りんなせい) 南町車 寿老人(じゅうろうじん)



からくり披露 神守山車

とき/午前10時30分頃~
ところ/神守一里塚前



津島山車

とき/午後1:00頃~ ところ/津島駅前

一斉総車切

とき/午後7:00頃~
ところ/天王通1交差点附近

(都合により、参加できない山車もあります。)

山車の起源

津島の山車は起源を異にする今市場、向島、七切、神守の山車群の四種類からなっています。大正15年10月津島神社が国幣小社に昇格したのを機にそれぞれ祭りに登場していた山車は翌年より同日に行われるようになり、現在は10月第一日曜日となりました。



尾張津島の二大祭礼は天王祭と秋まつりです。
秋まつりは、正徳元年(1711)に津島神社の末社、市神社の祭礼で傘鉾を出したことに始まり、各町は山車風流を競い合いました。
秋天の下、華麗な山車が町なかを巡行し、からくり人形の妙技を披露します。
山車の前方を持ち上げ回転させる勇壮な「車切」も必見です。
さらに太鼓・鉦を大音響で打ち鳴らす石採祭車、薄暮に数多の提灯が灯された山車など、秋の一日、江戸文化を満喫できます。

山車からくり津島囃子。鳴り渡る鉦太鼓。

尾張津島秋まつり

10月4日(日) 祭事



石採祭車

旧津島の北部・中部・南部の3車は大正4年頃から、唐臼町車については昭和31年から始まり、鉦・太鼓を打ちながら町を練り歩きます。*雨天時、天幕が変わる場合があります。



北部車

天幕は白地に神武天皇の頭に金鶏がとまっている有様を金糸糸糸で縫ってある。

中部車

天幕は青緑地に金糸糸糸で竹と虎が縫ってある。

南部車

天幕は西陣織で須佐之男命が八頭大蛇退治の有様を現している。

唐臼町車

天幕は赤色に旧桑名藩主松平氏の家紋星梅鉢を白く染抜いてある。

10/4(日)午前中、唐臼神社周辺を練り歩く。

石採祭車競演

(北部車・中部車・南部車)

とき/午後1:00頃~ ところ/津島駅前

石採祭車順路

各町内(午前10:00頃~) → 津島駅前 到着(午前11:45頃) 津島駅前競演(午後1:00頃~) → 市内練り歩き → 津島神社奉納(午後3:15頃~) → 市内練り歩き(午後4:40頃~) → 100周年記念競演会 寿町(午後5:30頃~) → 各町内



かぐら 神楽

神楽台の上に屋形を置き、その後方に美しく飾りつけた太鼓と付太鼓を載せ各町内で引き出され神楽太鼓が打ち鳴らされます。



津島神社奉納

- 武道大会 午前9:00~午後3:00頃 「神社境内前」(雨天の場合は観成館)
- 石採祭車 午後3:15頃~ 「神社楼門前」
- 山車からくり 午後3:30頃~ 「神社楼門前」(順次からくり奉納)

津島山車順路 各町内 → 津島駅前到着(午後0:15頃~) → 津島駅前からくり・車切披露(午後1:00頃~) → 天王通り(午後2:20頃~) → 津島神社からくり奉納(午後3:30頃~) → 天王通1交差点附近一斉総車切(午後7:00頃~) → 各町内 ※天候等により中止又は時間変更になる場合もあります。

七切の山車 市神社(いちがみしゃ)の祭礼に引かれたもので、正徳元年(1711)前に提灯を付け傘鉾を出したのに始まったと言われる。



◆ 麩屋町車 ◆ 池町車 ◆ 北町車 ◆ 小之座車(不参加) ◆ 米之座車 ◆ 高屋敷車 ◆ 布屋町車 ◆ 瀬取神子(せとりみこ) ◆ 唐子遊(からこあそび) ◆ 唐子遊(からこあそび) ◆ 獅子舞と唐冠の太閤さん ◆ 神主が宝船に変わる ◆ 壁々(しよしゅう)の面をかぶり鉦を打ち鳴らす ◆ 鉦子(えびす)・大黒の舞

今市場の山車 大土社(おおつちしゃ)の祭礼に引かれたもので、天明年間(1781~1789)以前に整備されていたと言われる。



◆ 小中切車 ◆ 朝日町車 ◆ 大中切車(不参加) ◆ 住吉明神変じて社殿となり又明神にもどる ◆ 瀬立神子(せだちみこ) ◆ 鶯(おきな)と唐子遊(からこあそび)

向島の山車 居森社(いもりしゃ)の祭礼に引かれたもので、寛政年間(1789~1801)頃に整備されていたと言われる。



◆ 中之町車 ◆ 馬場町車 ◆ 上之町車 ◆ 唐子の文字書き ◆ 大黒の打出の小槌(こづち)が割れて唐子が出て遊ぶ ◆ 唐子の飛付き